

抗癌剤の催吐性リスク分類と制吐療法について

抗癌剤治療に伴う副作用のひとつである、吐き気・嘔吐を適切にコントロールするためには、各抗癌剤の催吐性リスクを把握した上で、制吐薬を適正に使用することが大切です。そこで、当院で採用されている注射用抗癌剤を中心に、『制吐薬適正使用ガイドライン 2015年10月【第2版】』をもとに、催吐性リスクの分類と制吐治療についてまとめました。

① 高度催吐性リスクの注射用抗癌剤に対する制吐療法

【1日目(急性): アプレピタント + 5-HT₃受容体拮抗薬 + デキサメタゾン, 2日～(遅発性): アプレピタント + デキサメタゾン】

制吐薬	当院採用薬	1	2	3	4	5	day
アプレピタント	イメンドカプセルセット	125	80	80			
5-HT ₃ 受容体拮抗薬	ゾフラン注 4mg/管, カイトリル錠 1mg	経口 or 注射	(必要時)	(必要時)	(必要時)	(必要時)	
デキサメタゾン	デキサート注 3.3mg, デカドロン錠 0.5mg	注射 9.9	経口 8	経口 8	経口 8	経口 (8)	

- *アプレピタントを使用しない場合は、1日目のデキサメタゾン注射薬は 13.2～16.5mg とする
- *5日目のデキサメタゾンは状況に応じて投与の可否を選択出来る
- *ゾフラン注 4mg/管以外に、アロキシ注 0.75mg/瓶も、患者限定薬として使用可能である

② 中等度催吐性リスクの注射用抗癌剤に対する制吐療法

【1日目(急性): 5-HT₃受容体拮抗薬 + デキサメタゾン, 2日目～(遅発性): デキサメタゾン】

制吐薬	当院採用薬	1	2	3	4	5	day
5-HT ₃ 受容体拮抗薬	ゾフラン注 4mg/管, カイトリル錠 1mg	経口 or 注射	(必要時)	(必要時)	(必要時)		
デキサメタゾン	デキサート注 3.3mg, デカドロン錠 0.5mg	注射 9.9(又は 6.6)	経口 8	経口 8	経口 (8)		

- *デキサメタゾンを積極的に使用できない場合は、デキサメタゾン 2～4 日間の代わりに、5-HT₃受容体拮抗薬 2～4 日間を追加する
- *ゾフラン注 4mg/管以外に、アロキシ注 0.75mg/瓶も、患者限定薬として使用可能である

中等度のオプション(CBDCA, IFM, CPT-11, MTX など使用時)

【1日目(急性): アプレピタント + 5-HT₃受容体拮抗薬 + デキサメタゾン, 2日目～(遅発性): デキサメタゾン】

制吐薬	当院採用薬	1	2	3	4	5	day
アプレピタント	イメンドカプセルセット	125	80	80			
5-HT ₃ 受容体拮抗薬	ゾフラン注 4mg/管, カイトリル錠 1mg	経口 or 注射	(必要時)	(必要時)	(必要時)		
デキサメタゾン	デキサート注 3.3mg, デカドロン錠 0.5mg	注射 4.95(又は 3.3)	経口 (4)	経口 (4)	経口 (4)		

- *2日目以降のデキサメタゾンは状況に応じて投与の可否を選択出来る
- *ゾフラン注 4mg/管以外に、アロキシ注 0.75mg/瓶も、患者限定薬として使用可能である

③ 軽度催吐性リスクの注射用抗癌剤に対する制吐療法

【1日目(急性): デキサメタゾン】

制吐薬	当院採用薬	1	2	3	4	5	day
デキサメタゾン	デキサート注 3.3mg,	注射 6.6(又は 3.3)					

- *状況に応じてプロクロルペラジン(ノバミン錠)またはメクロプラミド(プリンペラン注)等

④ 最小度催吐性リスクの注射用抗癌剤に対する制吐療法

- *通常、予防的な制吐療法は推奨されない

催吐性の分類	注射用 抗がん剤	略号	商品名
高度(催吐性)リスク high emetic risk (催吐頻度 >90%)	シクロホスファミド($\geq 1,500 \text{ mg/m}^2$)	CPA	エンドキサン
	シスプラチン	CDDP	ランダ
	ダカルバジン	DTIC	ダカルバジン
中等度(催吐性)リスク moderate emetic risk (催吐頻度 30~90%)	アザシチジン		ビダーザ
	イダルビシン	IDR	イダマイシン
	イホスファミド	IFM	イホマイド
	イリノテカン	CPT-11	トポテシン
	エノシタビン	BH-AC	サンラビン
	エピルビシン	EPI	ファルモルビシン
	オキサリプラチン	L-OHP	エルプラット
	カルボプラチン	CBDCA	カルボプラチン
	三酸化ヒ素		トリセノックス
	シクロホスファミド($< 1,500 \text{ mg/m}^2$)	CPA	エンドキサン
	シタラビン($> 200 \text{ mg/m}^2$)	Ara-C	キロサイド
	ダウノルビシン	DNR	ダウノマイシン
	ドキシソルビシン	ADM, ADR	アドリアシン
	ピラルビシン	THP-ADM	テラルビシン
	ブスルファン	BUS	ブスルフェクス
	ベンダムスチン		トレアキシシン
メトトレキサート($\geq 250 \text{ mg/m}^2$)	MTX	メソトレキセート	
メルファラン($\geq 50 \text{ mg/m}^2$)	L-PAM	アルケラン	
軽度(催吐性)リスク low emetic risk (催吐頻度 10~30%)	エトポシド	ETP	ラストテット
	エリブリン		ハラヴェン
	ゲムシタビン	GEM	ゲムシタビン
	シタラビン($100 \sim 200 \text{ mg/m}^2$)	Ara-C	キロサイド
	トラスツズマブ エムタンシン		カドサイラ
	ドセタキセル	DTX	ドセタキセル
	ノギテカン		ハイカムチン
	パクリタキセル	PTX	パクリタキセル
	パクリタキセル アルブミン懸濁型	nab-PTX	アブラキサン
	フルオロウラシル	5-FU	5-FU
	ミトキサントロン	MIT	ノバントロン
	メトトレキサート($50 \sim 250 \text{ mg/m}^2$)	MTX	メソトレキセート
	ラニムスチン	MCNU	サイメリン
最小度(催吐性)リスク minimal emetic risk (催吐頻度 <10%)	L-アスパラギナーゼ	L-ASP	ロイナーゼ
	ゲムツズマブオゾガマイシン		マイロターグ
	シタラビン($< 100 \text{ mg/m}^2$)	Ara-C	キロサイド
	セツキシマブ		アービタックス
	トラスツズマブ		ハーセプチン
	ビノレルビン	VNB	ナベルビン
	ビンクリスチン	VCR	オンコビン
	フルダラビン	Flu	フルダラ
	ブレオマイシン	BML	ブレオ
	ベバシズマブ		アバスチン
	ペルツズマブ		パージェタ
	ボルテゾミブ		ベルケイド
	メトトレキサート($\leq 50 \text{ mg/m}^2$)	MTX	メソトレキセート
	リツキシマブ		リツキサン

催吐性の分類	レジメン	対象疾患	薬剤
消化器がん			
高度(催吐性)リスク high emetic risk (催吐頻度 >90%)	5-FU/CDDP	食道がん	5-FU, CDDP
	S-1/CDDP	胃がん	S-1, CDDP
	FOLFOXIRI	大腸がん	CPT-11, 5-FU, F-OHP
	FOLFIRINOX	膵がん	F-OHP, 5-FU, CPT-11, 5-FU
中等度(催吐性)リスク moderate emetic risk (催吐頻度 30~90%)	GEM/CDDP	胆道がん	GEM, CDDP
	FOLFIRI	大腸がん	5-FU, CPT-11, 5-FU
	IRIS	大腸がん	S-1, CPT-11
	FOLFOX	大腸がん	5-FU, F-OHP, 5-FU
	XELOX	胃がん, 大腸がん	カペシタビン, F-OHP
	SOX	胃がん, 大腸がん	S-1, F-OHP
	GS	膵がん	GEM, S-1
GEM/nab-PTX	膵がん	GEM, nab-PTX	
婦人科がん			
高度(催吐性)リスク (催吐頻度 >90%)	CAP(CPM/ADR/CDDP)	卵巣がん, 子宮体がん	CPM, ADR, CDDP
	TAP(PTX/ADR/CDDP)	子宮体がん	PTX, ADR, CDDP
	AP(ADR/CDDP)	子宮体がん	ADR, CDDP
	CPT-11/CDDP	卵巣がん, 子宮頸がん	CPT-11, CDDP
	TP(PTX/CDDP)	卵巣がん	PTX, CDDP
中等度(催吐性)リスク (催吐頻度 30~90%)	TC(PTX/CBDCA)	卵巣がん	PTX, CBDCA
	DC(DTX/CBDCA)	卵巣がん	DTX, CBDCA
泌尿器科がん			
高度(催吐性)リスク (催吐頻度 >90%)	MVAC	膀胱がん	MTX, VLB, ADR, CDDP
	GEM/CDDP	膀胱がん	GEM, CDDP
造血器悪性腫瘍			
高度(催吐性)リスク (催吐頻度 >90%)	ESHAP	悪性リンパ腫	ETP, CDDP, Ara-C, mPSL
	ABVd	悪性リンパ腫	ADR, BLM, VLB, DTIC
	CHOP	悪性リンパ腫	CPA, ADR, VCR, PSL
	EPOCH	悪性リンパ腫	ETP, CPA, ADR, VCR, PSL
	Hyper-CVAD/MA	悪性リンパ腫	CPA, ADR, VCR, DEX, MTX, Ara-C
	DNR/Ara-C	急性白血病	
	IDR/Ara-C	急性白血病	
	ICE	悪性リンパ腫	IFM, CBDCA, ETP
	DeVIC	悪性リンパ腫	IFM, CBDCA, ETP, DEX
	C-MOPP	悪性リンパ腫	CPA, VCR, PCZ, PSL
中等度(催吐性)リスク (催吐頻度 30~90%)	VAD	多発性骨髄腫	VCR, ADR, DEX
	VCP	悪性リンパ腫	VCR, CPA, PSL
乳がん			
高度(催吐性)リスク (催吐頻度 >90%)	AC	乳がん	ADM, CPA
	EC	乳がん	EPI, CPA
	FAC	乳がん	5-FU, ADM, CPA
	FEC	乳がん	5-FU, EPI, CPA
	TAC	乳がん	DTX, ADM, CPA
中等度(催吐性)リスク (催吐頻度 30~90%)	TC(DTX/CPA)	乳がん	DTX, CPA
	CMF	乳がん	CPA, MTX, 5-FU

<参考文献> 一般社団法人 日本癌治療学会編: 制吐薬適正使用ガイドライン 2015年10月【第2版】